

海老名市立大谷小学校 学校運営協議会 議事録
(令和7年度 第2回)

- 1 日時 令和7年10月14日(火) 9:00～10:30
- 2 場所 海老名市立大谷小学校 校長室
- 3 出席委員 石井 正雄委員長、藤澤 ゆかり委員、今別府 淳子委員、桐生 行雄委員、吹越 真佐美委員、鈴木 竜也委員、ホーランド 佳奈委員
島仲 京子校長、岩瀬 歩総括教諭

4 会議の内容

(1) 今年の運動会について

島仲校長

今年も主体性を育むことを重点に置き、子どもの創意工夫が生かせる取り組みを行っている。例えば子どもがダンスの曲目を決めたり、振り付けを考えたりしている。また、各学年ダンスリーダーを立て、子どもたちで練習を進めていくようにしている。発達段階にもよるが高学年は子どもたちに委ねる部分が多くなってくる。また、3年生は地域の伝統芸能の「ささら」を取り入れ、EBINA ダンスバージョンとして振り付けを考えた。また、保存会の人たちをゲストティーチャーとしてお招きして、「ささら」の鳴らし方や歌を教わった。

子どもの主体性を重視して運動会を見直す中で、教師も児童も何をどこまでやっていけばよいのか明確な共通理解がないために、迷っている部分もあるように見受けられる。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果について

岩瀬委員

今年の結果は国語、算数とも全国平均を下回った。時間が足りないと感じる子もいたようだった。漢字の書き取りについては比較的良好であった。従来「朝自習」としていた時間をモジュールで教科として取り、学習内容ややり方を自分で計画を立てて取り組む主体的な学習の時間とした。漢字の学習に充てている学年も多く効果が出ているのかもしれない。「話す・聞く」の分野の結果も上向きである。中学校区で取り組んでいる「外国語推進校」として理由や根拠を明確にする言語活動に今後も研究を進めていきたい。

(3) 学校教育目標について

島仲校長

大谷中学校区の3校共通の学校教育目標であるが、10年が経ち見直しの時期に来

ている。子どもの実態や教師や地域の願いを改めて見直している。大谷小学校の児童は自己肯定感が低いという実態がある。全国学力・学習状況調査の結果からも伺える。自信をもっていくことができるように取り組んでいきたい。一方、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の肯定回答が高かった。今の6年生は総合的な学習の時間で、福祉施設の方や農家さんたちと関わり地域社会に出て活動してきた経験の成果かもしれない。

各委員から

桐生委員：意欲をもって学ぶことが自己肯定感につながるのではないかな。運動会については、みんながどのように考えて取り組んできたのかについて自由に言える場があるといい。また、子どもたちが取り組んできた経過がわかるドキュメンタリーのようなものを発信していてもおもしろいのではないかな。

ホーランド委員：運動会の表現は難易度の高いもの、完成度を求めていくものなのか。子どもたちの能力もそれぞれであるし、ダンスリーダーとなる子や先生たちの思い、子どもたち一人ひとりの思いもそれぞれであろう。

島仲校長：運動会を成果の発表の場とするのではなく、その行事を通して子どもたちがどのような力をつけていったかということを大事にしたい。つけた力を明確にし、そのためにどのような活動に取り組んでいくのか先生たちと共通理解をもって取り組む必要がある。そのプロセスを地域発信していくことで、地域と共に子どもを育てることにつながるかもしれない。

(4) その他

夏休みについて

桐生委員：子どもたちは夏休みをどのように過ごしているのか。あまり外で姿を見かけなくなった。

鈴木委員：夏休みの課題も少ない。読書感想文は必須ではないのか。

岩瀬委員：応募作品から必ず1つという枠は外した。自由に取り組んでよい。

藤澤委員：キットなどを使って取り組むのは違うのではないかな。

ホーランド委員：コンクールではなく、子どものやりたいことに取り組んだ。

島仲校長：夏休みの課題について学校で指導はしていない。各家庭にお任せする期間なので、基本的に強制はしない。

(5) 次回の日程

島仲校長

次回の、学校運営協議会は、令和8年2月20日（金）9:00から開催予定。

その前に学習発表会にご招待する予定。

学習発表会も運動会と同様、学校行事を通してどのように学校教育目標の具現化につなげるのか考えていきたい。